

教職員の皆様へ

教育センターだより【 8 号】

令和元年9月 2日発行



518-0485

三重県名張市百合が丘西5番町25番地

事務室・教育よろず相談 1F

Tel 0595-64-8801 Fax 0595-64-8802

E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.mie.jp

minakuru01@nabari-mie.ed.jp

ホームページ <http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/>

適応指導教室（さくら教室）2F

Tel 0595-63-7830 Fax 0696-63-7830

E-mail:sakura@nabari-mie.ed.jp

学校ボランティア室 1F

Tel 0595-64-8864 Fax 0595-64-8802

教育講演会

「子どもの言動の背景にあるものを」

「わかる授業を」

教えること、育てること、そして、愛すること～教師として生きる「覚悟」を問う～

8月9日(金)

平松 義樹 先生(愛媛大学名誉教授)

人の感情を客観的なものさしで計ることはできない。「悲しい・寂しい・つらい」といった子どもたちの心にあるものは、確実に主観的事実として存在する。こういった視点や考え方を私達は子ども理解に努め、その子の背景にあるものも理解しながら寄り添わなくてはならないということを学びました。一人ひとりを決めつけで見るのではなく、違った角度や広い視野で見る(「見る」)ことによって、今とは違った、今よりも好ましい関わり方が見えてくるのではないかと考えさせられる講演でした。また同時に、いつでも子どものことを話し合える教師集団や、わかる授業を追求することが生徒指導につながることも改めて教えていただきました。「あせらず・あなどらず・あきらめず」ですね。



新学習指導要領全面实施を見据えた移行期における小学校外国語活動 8月5日(月)

川村 一代 先生(皇學館大学准教授)

様々なクラスルームイングリッシュで雰囲気作りをして頂くことから始まり、具体的な授業場面を取り上げながら、子どもたちの自由に表現したい気持ちに対してどのような指導や関わりをするのかなどについて、イメージしやすく説明してくれました。その中には、子どもが表現しようとする日本語を、いかに簡単にかみくだいて英語にするのかなどのヒントも多くいただきました。また、それぞれの学年において対話を続けるための基本的な表現について、各成長段階に応じてどのようなめあてを持って取り組ませるのかなども研修できました。



教科・領域研修

夏休み前半
総まとめ



理科実験での工夫～お困り実験のヒントを考えよう～8月1日(木)

吉住 昌三 先生・藤岡 正則 先生(教育センター教育専門員)



質問が多くきている「根の維管束の観察」「物の温度と体積の実験」「葉にできたデンプンを調べる実験」「地層のでき方の実験ポイント」「流れる水のはたらき」などについての説明と、実際に実験・観察を行いました。今年度の理科の研修講座は、事前に先生方から質問を受け、それに答える形での体験や講習が行われました。参加された先生方は、日常の授業の中で実験を行うときの参考になったようで、「顕微鏡であんなにはっきりと見るとは思わなかった」「ゼビ液体窒素の実験を授業でも行いたい」などの感想が多く見られました。

算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わう授業作り

7月25日(木) 細水 保宏 先生(明星大学客員教授)

授業の中で活用できる具体的な問題を多数例示していただき、その中で算数のおもしろさや魅力を存分に味わうことのできた時間となりました。どの問題も、驚きや感動を伴うだけでなく、多様な考え方ができるものばかりで、ペアワークをどのように位置づけていくかと言うことも関連してお話をしてくださいました。また、子どもに対する言葉がけやの空気の作り方の方法や大切さについても改めて研修することができました。



名画鑑賞のあり方

8月8日(木)

竹田 進 先生(百合が丘小学校教諭)

名画を鑑賞する方法として、感想を述べ合うような形でなく、自分もその絵の一部を描くことによって、その絵の特徴を知るといった方法を教えていただきました。同時に、その絵の中にある時代背景、心情などから平和への願いに至るまで、図工・美術の学習の目的に深く触れることもできました。作品作りだけが図工なのではなく、子どもの発達に関わる何かをクリエイティブすることだとも教わりました。



課題研修

夏休み前半
総まとめ



教科指導のためのICT活用研修
NTTドコモ・ロイロ

桔梗が丘小学校教員 **全3回**

夏季休業中、小学校の先生方を対象にしたICT活用研修が行われました。タブレットを使って課題を一齐に配付し一齐に回収することなど、授業を行う上でのロイロノートの便利さに触れていただきました。また、授業での具体的な活用例や先進校の実践例なども研修したことにより、今後の授業でのICT活用のイメージがより明確となる機会となったのではないかと思います。ぜひ研修に参加された先生方が各小学校で還流し、どんどん実践に役立てていただきたいと思います。

週末教育事業体験

吉住 昌三 先生・藤岡 正則 先生 (教育センター教育専門員)

7月29日(月)



水引細工・万華鏡・切り絵のうちわ作りなど、これまで「週末教育事業」で行ってきた活動を、実際に先生方にも体験していただきました。身の回りにある物で「こんな物を作ることができるのか」と改めて感じたり、驚きもたくさんあったようで、大変充実した時間となりました。クラブなどで実用できるものがたくさんあったという感想が多く見られました。

乳幼児期の教育・保育に求められる発達理解と適切な援助の在り方

8月1日(木) 長瀬 美子 先生 (大阪大谷大学教授)

何気ない日常で起こることが「今こそ力をつけるべきチャンスだ」と捉え、あそびも含めて「不思議だな」と自ら考える体験をさせていくことが重要であるという話をいただきました。そのために、それぞれの年齢における発達のスタンダードを知ることや、子どもの思いに心を寄せることなど、就学前に必要な関わり方を具体的に教わる機会となりました。



授業で学級を創る

土作 彰 先生 (広陵町立広陵東小学校教諭)

7月30日(火)

漢字・算数・社会などの授業で、子どもに興味を持たせる授業の「ネタ」を数多く紹介していただきました。どれも驚きや学ぶ楽しさを伴うものばかりで、すぐに使える！と感じる教材や授業展開に多く触れることができました。また、その学習活動の中で、子どもに対してどのように関わったり声かけをしていくか、承認することの大切さなどのお話もいただきました。



発達障がいと不登校

小林 穂高 先生 (名張市立病院副診療部長・小児科医師)

8月2日(金)

不登校や発達障がいには、様々な要因があり、それぞれに応じた指導や関わり方などがあることを1つ1つ具体的に研修することができました。特性を理解した上で、その子だけでなく保護者にもどのように対応していくべきかなどを医療的な立場から聞かせていただくのは大変説得力があり、私たち教師も新たな視点を持つことができました。



シリーズ第2回

ちょっとホットの会 (教職員バージョン)

森川 泉 先生 (臨床心理士 三重県スクールカウンセラースーパーバイザー)

8月5日(月)

「学校に行きにくい子どもたちを支えるために」というテーマのもと、不登校の子どもへの関わり方や保護者への対応について、具体的な事例に対するアドバイスも含めて研修することができました。キーワードの1つとして「エネルギーをためる」ということについて、新たな視点があたえられました。その子なりに工夫してエネルギーをためている(時には質の良い休養をしている)ということも理解しつつ、そのために私たちがどのように関わっていくか、そして、学校内での母性・父性といった役割分担の仕方などについても触れられました。ぜひ各学校でも還流の機会を。



今さら聞けない。教えて、パールソン!

オッケー



Q:新学習指導要領にある「主体的」って「興味・関心をもって」ってことでしょうか? 「対話的」って「交流しながら」ってことでしょうか?

じゃあ、「深い学び」っていったい何なの?



A:「見方・考え方」をはたらかせて、自分の持っている知識や新たな情報を関連づけたり整理したりしながら問題解決に向かう、その過程の中での「学び」のことを言います。また、そのことによって新たな問題を見出したり、自らが何かを創り出したりすることも期待するものです。習得→活用→探求といった一連の学習活動の中で、自分の考えを広げたり、より確信を持ったり、新たな疑問が生じたりする経験をさせていくことが「深い学び」に繋がっていくのです。授業の中で、思考・判断・表現させていく機会をいかに位置づけていくかが私たち教師にとって重要なこととなるのです。

QUIZ

「なばり学」で「学習指導要領」キーワード

私たち教師がふるさと学習「なばり学」の知識をチェックするコーナーです。次のヒントをもとに名張市に関する言葉を入れ、■の文字を並べ替えると、6文字の学習指導要領のキーワードが完成するよ。

赤目四十八滝から峠を越えた柱状節理の岸壁をもつ溪谷	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
美旗古墳群最大の方後円墳 全長142m	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
山里中心の名張が、特別な時にご馳走として作られた海の幸の料理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
「つめたい」を名張の方言で	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
旧細川邸としても知られる奈良県の薬店の支店	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
名張駅前で観阿弥像がもっているもの(翁面とも呼ばれる)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

センターへお越しの際、研修員杉田が在室中に答を言って下さった方、先着2名様になばり学パッチをプレゼント。

